

豊かで 住みよい 町づくり

上勝



議会だより

2026. 2. 1 発行

- 2P 第7回定例議会・予算
- 4P 審議案件と議決結果
- 5P 主な質疑・討論
- 6P 一般質問 6名が町政について質問
- 12P 先進地視察報告(岩手県)
- 14P まちのようす

撮影：前田議員

令和7年12月定例会 補正予算の主な内訳

令和7年度 一般会計補正予算 (補正第3号)

補正額
(追加)

1,001万円

総額

42億7,976万円

第7回
定例会

主な
もの

- 総務 財産管理費
賠償金 共同利用クラウド違約金……………302万円
地方創生推進事業費
業務委託料 森林整備(交付金事業)……………249万円
- 民生 物価高対応子育て応援手当事業費
物価高対応子育て応援手当給付金(0~18歳)……………290万円
- 土木 地方創生道整備推進交付金事業費
業務委託料 大平中央線改良工事地質解析(計変) 1,200万円

閉開会
会会期
令和7
年12
月16
日 9
日 8
日

令和7年度 国民健康保険 (事業勘定) 特別会計補正予算 (補正第3号)

補正額
(追加)

55万円

総額

2億2,723万円

主な
もの

- 保給 出産育児一時金
交付金 出産育児一時金(1名分)……………50万円

令和7年度 介護保険特別会計補正予算 (補正第3号)

補正額
(追加)

347万円

総額

3億6,220万円

主な
もの

- 総務 一般管理費
業務委託料 制度改正に伴うシステム改修費(国費1/2)
……………326万円

令和7年度 国民健康保険（診療施設勘定） 特別会計補正予算（補正第2号）

補正額
(追加)

130万円

総額

1億2,200万円

主なもの

- 総務 一般管理費
一般職給 人事院勧告に伴う人件費補正 …………… 69万円

令和7年度 国民健康保険（福原診療施設勘定） 特別会計補正予算（補正第2号）

補正額
(追加)

22万円

総額

2,061万円

主なもの

- 総務 一般管理費
一般職給 人事院勧告に伴う人件費補正 …………… 12万円

令和7年度 上勝町奨学資金 特別会計補正予算（補正第1号）

補正額
(追加)

108万円

総額

312万円

主なもの

- 繰出 繰出金
奨学資金貸付金基金会計繰出金(繰上償還に相对)
…………… 108万円

令和7年

第7回上勝町議会定例会 審議案件と議決結果

(第3日)令和7年12月16日(火)

○:賛成 ×:反対 一:議長が賛否に加わっていない場合

議案番号	件名	質 疑	討 論	結 果	片 山 政 紀	新 田 勝 憲	平 原 美 和	関 康 昭	前 田 敏 宏	日 下 一 茂	岡 本 明	高 石 雅 弘
議案第66号	上勝町議会議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例及び常勤の特別職の給与及び旅費支給に関する条例の一部を改正する条例について	無	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第67号	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	無	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第68号	上勝町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	無	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第69号	上勝町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	無	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第70号	上勝町火災予防条例の一部を改正する条例について	無	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第71号	令和7年度上勝町一般会計補正予算(補正第3号)について	有	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第72号	令和7年度上勝町国民健康保険(事業勘定)特別会計補正予算(補正第3号)について	無	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第73号	令和7年度上勝町介護保険特別会計補正予算(補正第3号)について	有	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第74号	令和7年度上勝町国民健康保険(診療施設勘定)特別会計補正予算(補正第2号)について	無	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第75号	令和7年度上勝町国民健康保険(福原診療施設勘定)特別会計補正予算(補正第2号)について	無	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第76号	令和7年度上勝町奨学資金特別会計補正予算(補正第1号)について	有	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第77号	損害賠償の額の決定について	有	無	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	—
議案第78号	監査委員の選任につき同意を求めることについて	無	無	原案 同意	○	○	○	○	○	○	○	—
—	議会常任委員の選任について	—	—	選任	産副	総副	総長	産	総	産	総	産
—	議会運営委員の選任について	—	—	選任	選	副	副	運	運			
—	委員会の閉会中の継続調査について			承認	○	○	○	○	○	○	○	—
—	寄附の申し立てについて			報告								

新しい監査委員に
酒井直美氏が任命されました。

任期 令和8年1月1日～
令和11年12月31日(4年間)



主な質疑・討論

上勝町議会

第7回定例会

議案第71号

令和7年度上勝町一般会計 補正予算(補正第3号)

問 平原議員

おむつの炭素化装置に係る電気代が月平均で10万円弱になる。焼却ごみ全体の費用が年間300万円少々の中で、おむつ自体の年間の総排出量に対する焼却費用は出ているか。

答 清井参事兼企画環境課長

焼却費用は、令和6年度の実績で307万5,193円、これをおむつ処理の12トンで割ると、月額税込み6万7,100円になる。電気代については多く見込んで月額10万円と考慮しており、現状の焼却より高くなるが、CO₂の排出等の実証実験を行うということで進めていく。

問 新田議員

防災、高齢化、過疎化について質問したが、予備費を増額すべきでないか。

答 久保総務課長

町行政全体の予備費として計上している。災害が発生した場合、専決なり、臨時議会を開き防災に特化した予算を計上する。

問 岡本議員

ダム水源の森を守り育てる事業の業務委託料については、どこが作業するのか。

答 清井参事兼企画環境課長

徳島中央森林組合に引き続き依頼する予定。

問 日下議員

紙折り機で1時間でどれくらい折れるのか。

答 久保総務課長

折り方によって若干変わるが約30分の1の作業になる。

問 前田議員

代替バス等、3年間で1億7000万円必要とのこと。スクールバスは必要と思うが、代替バスは財政難のときなので減らしては。

答 高橋教育委員会事務局長

兼支所長

代替バスは、業者から3年間の見積りをいただいて、走行距離等を掛けて計算している。

大北線は年間乗車人数が少ないので、検討していきたい。

問 前田議員

本線も、今の便より少しでも減らしたら、これほどお金もかからないので、検討しないのか。

答 高橋教育委員会事務局長

兼支所長

今後、本線も含めて検討していきたい。

問 岡本議員

減らすのは当たり前のことだが続ける事も大事だ。乗らされている方があれば、続けていただきたい。

住民のことが一番。今年1

年データをきっちり取り、よりよいように、お願いしたい。

答 高橋教育委員会事務局長

兼支所長

乗られている方とくに意見を聞き取りしながら、継続するか、廃止するか、また代替案を検討したい。

議案第73号

令和7年度介護保険特別会 計補正予算(補正第3号)

問 平原議員

介護保険システムの標準化の進捗度は。

答 三原住民課長

介護保険システムの標準化はできている。今回の改修は、税制改正に伴うシステム改修である。

議案第76号

令和7年度上勝町奨学金特 別会計補正予算(補正第1号)

問 片山議員

貸付金収入が増えているが、返還率が増えたのか。また、貸付の額を増やすことはでき

ないか。

答 高橋教育委員会事務局長

兼支所長

率は関係なく、3年分の繰上げ償還による補正である。貸付金額を上げることは今後検討していきたい。

議案77号

損害賠償の額の決定

問 岡本議員

標準システムの移行で発生した損害賠償とのことであるが、値引きの部分の説明を。

答 久保総務課長

一契約相手については人件費に係る部分について、一契約相手については、契約部分の前倒しという分で、免除をいただいた。

(※参考 損害賠償金額300万円余りについては、全額国庫補助金である。)

問 IP電話の代替案はあるのか



前田敏宏 議員

IP電話サービス停止について

問 大手通信会社のサービス停止に伴い、ケーブルテレビ徳島株からサービス提供ができなくなったとの事だが、もっと早い段階で通知なり、連絡はなかったのか。

答 久保総務課長
通知、連絡は8月に事業者の方から提案があり、役場もはい分かりましたと言えない状況で折衝を勝浦町と共に行った。猶予期間を踏まえて8月中旬に返事を願ったが、3月31日をもってサービスを終了する変更はできないと通知があった。

問 どのような支障が生じるのか。

答 久保総務課長
大きく2点想定される。1点目はIP電話のみの家庭や施設、事業所様については必要に応じて代替手段を導入するなど対応が必要になる。
2点目はIP電話番号を連絡先として外部等に公

開しているものについては、修正、削除をする必要があると思う。

問 サービス停止に伴い、高齢者等の安心見守りシステムに支障が生じるのでは。

答 三原住民課長

11月現在で、見守りシステム設置世帯のうち、IP電話のみの世帯は23戸ありIP電話が終了した後には通報ボタンを押すと保守会社、立山科学コーポルセンターが信号を受け登録された協力員である家族、ご近所の方へ連絡がいく。メールでのお知らせは従来どおり親族へ自動送信される。
登録者は特段変更手続きや費用の負担なく、システムを利用できる。

問 IP電話代替案はあるのか。

答 久保総務課長
町からIP電話の代替手段は残念ながら新たに提供するサービスはない。NTT固定電話や携帯電話、また携帯電話会社が

提供しているものを個別に契約することになる。

問 NTT西日本固定電話サービスに回線を戻した場合予算等ほどの程度発生するのか、またメリットはあるのか。

答 久保総務課長

NTT固定電話の回線工事料は、一か所、一回線2万2000円の初期費用が必要となり、月額料金は2000円〜3000円程度の基本料金と通話料金が必要となる。メリットは、NTT固定電話の場合機種にもよるが停電時に使用可能、デメリットは基本料金がIP電話と比べて高くなる。また、2035年には現行のメタル回線サービス提供を終了するとNTTから発表されており、順次、光回線やモバイル回線サービスへの移行、代替案を示している。現時点で上勝町がサービス提供エリアかどうかは不明。2035年以降は固定電話サービスが受けられない可能性もある。上勝町におけるメタル回線提供

終了後の代替案は未定。なお代替手段をどうしているか分からない方を対象に、携帯電話の通信事業者に協力をいただき、2月をめどに相談会の開催を予定している。

要望 なかなか人口の少ないところは、企業も採算が取れないので撤退をしていくと思う。そうはならないように、しっかりとこれからのことを模索してほしい。

南海トラフ被害想定住民臨時情報について

問 昨年9月定例議会ด้วย県によるアンケート結果を伺いたい。昨年の時点では、まだ、結果出ていないとの事であったため。

答 久保総務課長

全県民を対象に、昨年8月27日から9月16日までの21日間実施し2963人が回答した。臨時情報の認知度は初めて知った55%、以前から知っていた43%、今回の発表によって98%の方が認知し

たことになる。地震の可能性が少しでも高まったなら臨時情報をだしてほしいという方が7割いた。

問 結果も踏まえて住民への周知、上勝町の対応も検討することであるが、どのような対策、検討ができたのか。

答 久保総務課長

本町では、対応マニュアルを以前より整備している。

また、臨時情報が発表された際には、町内放送や町公式ライン等で正確な情報発信を行う。昨年度の総合防災訓練でもテーマに取り上げ、町広報紙等に掲載し周知に努めていく。来年度には、総合防災マップの更新を予定しその中においても、南海トラフ地震臨時情報に関する内容を盛り込み住民の皆様へ周知していく。

その他

救急救命士動員についても質問した。



新田勝憲 議員

問 県道16号線福原 ～傍示間の法面上部雑木伐採について

建設課 旭地区を中心に県道沿いの伐採を行っている

減災対策、県道16号線について

問 県道16号線は上勝町にとって唯一の道路であり、旭、生実、福原、各地区にとって非常に大事な生活道路である。線状降水帯、南海トラフ巨大地震が発生、地すべり等による被害が出た場合、防災拠点である本庁、旭、生実、福原、各地区が孤立する可能性がある。能登半島地震の教訓を活かした減災対策として県道16号線、福原く傍示間の法面上部の雑木伐採を検討すべきである。

答 笹尾建設課長

現在、県道の倒木対策事業においては、積雪時の倒木による県道の閉塞、集落の孤立などを未然に防ぐ目的で、現在は、旭地区を中心に県道沿いの杉、ヒノキを中心に伐採を行っている。この事業では、基本的に雑木の伐採は対象外となっている。集落の孤立だが、福原、生実地区については、町道を経由すれば迂回路はある。ただ、旭地区の神

田より奥の集落の方は県道16号線が唯一の道路となるため、現在、森林整備や木材搬出等を目的に林道八重地市宇線、檜原線の2路線を開設している。この林道は迂回路も兼ねている。

限界集落の山里から住民を麓へ移住

問 山里には、高齢者世帯、高齢者の一人暮らしが非常に多く、家屋も古い建物が多い。線状降水帯、南海トラフ巨大地震が発生し、土砂災害や倒木等で道路が途絶し、ライフラインが長期にわたって使用不能となることなどが考えられ、消防や自衛隊などの救助隊の到着が遅れる事により、多くの人命が危ぶまれる。山里の住民を麓へ移住の検討に入るべきではないか。

答 清井参事兼企画環境課長

本町では、若年層の流失や高齢化による人口減少により、限界集落や危機的限界集落が存在する。時期は明確ではないが、集落移転についてアンケ

ートを実施したことがあり、結果は住み慣れた家、集落で暮らし続けたいとの住民の思いが強く、集落移転に向けた取組みは検討されなかったと聞いている。

住み慣れた家で生活ができなくなるときには、医療や介護などの面で支援が必要な時期に便利な場所へ移り住んでも、高齢者のみでの生活は難しくなる。現状では、高齢者の身体状況に応じて高齢者福祉施設の利用、例えばケアハウスは食事の提供や見守り、介護サービスを受けられる。住まいとしてご検討して頂くなど、住み慣れた上勝町で暮らし続けられるよう上勝町地域包括支援センターも相談に応じている。

大規模災害時の協力井戸について

問 災害時、生活用水に困る事例は数多く住民の生活を下支えるためにも、協力井戸は必要と考えるが、町内に協力井戸は何カ所あるか。

答 久保総務課長

現在、本町が把握している井戸は一か所、その所有者も住まわれていない。現在の井戸がどのような状況であるかは不明である。また、町として町内に幾ら井戸があるか把握はしていない。協力井戸の取組は、今のところ行っていない。

問 災害対策として、住民を守るためにも、町内数か所に井戸を掘ることを検討して頂きたい。

答 久保総務課長

本町は四国山地の北斜面にあり、地質構造は結晶片岩の固い岩盤で構成され、水を含んだ帯水層が非常に少ない地形である。本町で井戸を掘るには、非常に深い所まで掘り進めないと十分な水量が確保できないか、または全く水が出ない可能性もあり、莫大な費用と労力が必要とするので、本町でのさく泉は、適していない。

地域おこし協力隊・移住者の身元確認

問 地域おこし協力隊は、月の半分は自由活動であり移住者の生活は自由であるため、今後この制度を悪用し応募してくる可能性はある。地域おこし協力隊採用決定時、移住者の受け入れ時の身元確認方法は。

答 清井参事兼企画環境課長

地域要件等を確認するため、運転免許証・マイナンバーカード等で本人確認を行っている。独自の身元調査を行うことは、厚生労働省によって厳しく制限・禁止されている。

中山地区排水路の修理について

問 町道沿い排水路の修理を早期にお願いしたい。

答 笹尾建設課長

地元からも要望があり、現地確認しており、修理等の必要性を判断したい。

紙おむつ炭素化装置の実証実験について



片山政紀 議員

紙おむつ炭素化装置の実証実験について

問 12月に入り、もうすぐ町内に紙おむつ炭素化装置を設置して実証実験が始まることになると思うがどの程度の実験内容を考えているか。

答 清井参事兼企画環境課長
本実証実験では、住民が持ち込んだ使用済み紙おむつを炭素化装置で処理し、高齢者を含む幅広い世代が無理なく、日常的に利用できるかどうかを検証する。また、装置で加工される半炭化物は、化石燃料の代わりに活用することを視野に入れており、町内でのエネルギー利用を目指す。

問 我々も視察の時に受けた説明で、投入できる対象物には、広範囲において可能性があるように感じた。投入するものが多いほど生成される半炭化物も多く、燃料としての活用でリサイクル率もアップが見込めると思うが、おむつに限定することなく、視野を広げて入

れるものを増やすような実証実験を行ってみたいかどうか。

答 清井参事兼企画環境課長
本実証実験の目的は、使用済み紙おむつ処理の課題解決となっており、通常、ごみとして焼却され、CO₂を排出する使用済み紙おむつを化石燃料の代替燃料として利用することで、CO₂排出量の削減を目指す。

使用済み紙おむつは、高齢化に伴う使用量増加とともに、多くの水分を含むため、焼却効率の低下や自治体負担の増大につながっている。まずは、町内で年間約12トン排出されている紙おむつ、生理由ナプキン、ペットシートを対象に、炭素化装置による効果を確認する。

問 現在、上勝町でも住宅用の太陽光発電システムの導入支援については補助があるが、今年度、徳島市では発電システム

住宅用太陽光発電システム、蓄エネルギー機器等の導入支援について

に加えて家庭用蓄電システムと電気自動車等の充電設備についても行っている。これを踏まえて、本町も支援対象の設備を増やしたら良いと考えるが、現在の太陽光発電システムの導入件数について、どれくらいあるか把握しているか。

答 清井参事兼企画環境課長
上勝町再生可能エネルギー活用促進事業補助金制度は、平成25年から開始している。町の補助金制度を活用せずに導入されている件数については把握していないが、町の補助金制度を活用して太陽光発電が導入された件数は、平成27年度から令和6年度までの10年間で3件だ。また、本年度1件施工されている。

問 年間の申請数はどれくらいか。

答 清井参事兼企画環境課長
町の補助制度の申請数と導入数は同数となっている。

問 申請自体も少ないようだが、導入支援の効果があれば対象拡大を検討していただきたい。

答 清井参事兼企画環境課長
補助があれば導入に対する後押しになり、効果はあると思う。しかし、中山間地のため、太陽光発電装置の設置に不利な地域も多く、導入が進まないのが現状だ。

徳島県では、太陽光発電設備と併せて導入する場場合に限り、蓄電池を補助対象として、蓄電池価格の3分の1、かつ25万8000円以内の補助を実施している。現段階では、町独自に補助制度を設けるのは難しいと考えられており、徳島県の補助制度を町の広報誌で周知していく。

町営バスの運賃支払い方法について

問 先日の発表で、徳島バス、徳島市バスが来年3月から交通系ICカード、ICOCAを導入するニューズがあったが、これを利用すると利便性

があり、他の交通機関との連携もスムーズになるが、町営バスへの導入を考えているか。

答 高橋教育委員会事務局長兼支所長
導入は考えていない。

町道彩公園線の安全対策について

問 町道彩公園線の南岡集会所付近でスピード超過の車が多い、同線は診療所への主要道路であり、児童の通学路でもある。非常に危ないので、以前、担当課に事故予防対策を要望したが、どうなっているか。

答 笹尾建設課長
現地確認を行い、既に小松島警察署にて法定外表示等の設置の協議を行っており、特に問題がないと回答をいただいている。については、減速を促す路面標示について、年明けの1月に設置予定だ。



日下一茂 議員

問 教育委員会を勝浦町と連携を

教育長 事務統合は難しい問題がある

教育委員会について

問 小・中学生のスポーツ関係は、勝浦町と合同で行っている。教育委員会としてどのような動きをしているのか。

答 立川教育長

小学校は社会教育の範疇の中で行なわれている。今、小学生が入っているのは野球とサッカーであり、以前はバレーボールもあったが、現在は2つである。教育委員会が運営に直接関わることはない。上勝町の児童は勝浦町の児童と活動している。サッカーは佐那河内も入っている。上勝小学校のグラウンドで練習する場合は、勝浦町の児童が町営バスを利用して。その時の運賃は無料、無償だ。中学生の部活では学校教育では教科外活動に位置づけられており、学校が主体となって運営をしている。上勝中学校では3競技（野球、バスケット、バレーボール）を勝浦中学校との合同チームで行っている。教育委員会としては練習時の生徒の参加は、中学の部活

徒の参加は、中学の部活動便、スクールバスで勝浦中学校まで送っている。

問 教育委員会は子供のスポーツばかりが仕事ではないと思うが勝浦町教育委員会と連携できないものか。デメリットもあると思うが、学校教育・スポーツも勝浦町と一緒にできればできない状態になっているが教育長としての考えを聞きたい。

答 立川教育長
現在、勝浦町、上勝町教育委員会は、人権問題、特別支援等学校教育においても、交流学習等、様々な面で既に連携している。事務統合なども考えられるが、特に小規模自治体は有効な手段の1つと考えるが、研究のため令和4年3月に京都府相楽郡にある相楽広域連合教育委員会に視察に行った。本町の実態を考えると、学校教育、社会教育とともに、今までの取組の違いで統合は難しい。

問 勝浦町と統合する話があれば貸す耳は持っているのか。協議する時期に来ているのでは。

答 花本町長

勝浦町と教育長が京都府相楽郡に共に行って勉強してきた。教育委員会が一つになると、目が届かなくなることは間違いない。相楽郡の教育委員会の実態を見聞きしてきたので、そこらを踏まえ、今のところは、メリットは少ないと考える。

ごみ収集について

問 今は持込みを基本にしているが、高齢者による持込みが将来、不可能になることが目に見えている。団塊の世代の方も80歳近くになり、免許更新も難しくなりつつある。今後、ごみ収集についてどのように考えているのか。

答 清井参事兼企画環境課長

ごみをゴミステーションまで持ち込み手段がない方を対象に実施しているが令和7年7月より80歳以上のみの世帯も支援を受けられるよう、対象範囲を拡大している。高齢者等の負担軽減を図るための支援の範囲を広げためので、7月以降、80歳以上の方、5名の新規申込みがあった。11月号の広報紙でのとおり、家電4品及び小型家電の自宅回収サービスが利用できるようになった。

問 近い将来、ごみ収集車を走らす時代が来るのではないか。ゴミステーションまで持ち込む時代は終わったのではないか。

答 花本町長

今、80歳以上までになっているが70歳に下げることがも考える必要があるが現役で車の運転をされている方は持込みの協力を願う。

上勝町猟友会について

問 現在、わな猟を含め上勝町の猟友会は何名居るのか。

答 佐々木産業課長

令和7年度狩猟者台帳に基づく現在の捕獲従事者数は、高鉾猟友会が16名、福原猟友会が26名計42名だ。

問 移住者の免許保持者は何名か。

答 佐々木産業課長

移住者は高鉾1名、福原は2名計3名で、全体としては減少傾向にある。

問 移動式捕獲鳥獣処理機の利用状況は。

答 佐々木産業課長

令和7年7月22日より本格運用を開始し、12月8日時点で道路沿いでの死骸3頭を含む33頭の焼却処理を行った。

要望 猟友会の認知度を広報等で上げ、移住者の方にも協力を願う。

問 会計年度任用職員給与の4月遡及を



平原美和 議員

総務課長 周辺自治体の動向を見ながら検討する

会計年度任用職員 の処遇改善を

問 本町の正規職員と会計年度任用職員割合、男女比などはどのくらいか。

答 久保総務課長
正規職員53人
(男32、女21)
会計年度10人
(男7、女3)
パートタイム10人
(男4、女6)

問 会計年度職員も正規職員同様に給与の4月遡及を。

答 久保総務課長
県下24市町村のうち11自治体が4月遡及適応だが、13自治体が未適用だ。勝名管内で半数の遡及適用が最低条件だ。

町民の通信手段 への支援を

問 IP電話廃止により、他に通信手段を持たない世帯は町内でどれほどか。実態を把握しているか。

答 久保総務課長
IPのみを利用して世帯数は把握していない。契約は個人と事業者間のもので、町が情報を得ることは難しい。

問 町民からはどのような不安の声が寄せられているのか。

答 久保総務課長
「固定電話は使えるのか」「テレビは見られなくなるのか」など、生活への影響を心配する声が多い。事件寄せられている。

問 NTT回線の将来も不透明な中、町として町民負担の少ない選択肢を探る必要があるか。

答 久保総務課長
IP電話サービスは制度上終了が決まっており、町としても情報提供などに努めていく。

問 1年以上の猶予を求めたが「致し方ない」とされた理由は何か。

答 久保総務課長
事業者変更に伴い、NTT法との関係から令和8年3月末での終了が決定したためである。

重点支援地方 交付金の使い道

問 重点支援地方交付金について、お米券以外の活用は検討されているのか。

答 清井参事兼企画環境課長
交付額や制度の詳細が示されておらず、現時点では検討段階である。

問 物価高の影響を受ける町民の声に答え、通信手段の支援などに活用できないか。

答 久保総務課長
IP電話代替機の設置は、交付金の趣旨である物価高対策には該当しない。

問 近隣自治体では給食費無償化が進んでいる。今年度から実施する考えはないか。

答 高橋教育委員会
事務局長兼支所長
重点支援地方交付金を使った無償化は考えていない。国の制度設計を注視している。

要望 会計年度任用職員の処遇改善では、周辺自治体の動向を踏まえた判断をした。給食無償化についても対応を求めらる。

町制70周年記念 イベントについて

問 70周年イベントの経緯は。また企画内容の変更はなぜか。

答 清井参事兼企画環境課長
本町の恵まれた自然環境と文化・風土等を継承、発展させることを目的とし、記念事業の関わりを通して、改めて町を知り、ふるさとのつながりを実感できることを目的として実施した。当初計画案での価格15000円が5000円に、また子供たちが料理を作ることが叶わず、ゲストへのおも

てなしだけを行った。
問 イベントに関わる方の中には、変更点にはかなりのご苦労があったようだ。反省点や改善策はあがっているか。

答 清井参事兼企画環境課長
参加者からはよかったという声が多く、子供たちと一緒に調理できたよかったですという意見もあった。反省点は今後に生かしたい。

要望 関係者が皆で祝えるイベントとなるよう入念な計画を。

他、後継者未定農地・有害鳥獣対策・防災訓練について質問した。





岡本 明 議員

問 円滑に進んでいるという話でよいか

町長 地権者の了解を得ていないが机上論では心配ない

生実の町道について

問 山中様宅から中瀬津への道が狭く、地元から何度も要望が出ていると思うが、対応してもらえないとの相談を受けた。今後の対応は。

答 笹尾建設課長

以前から要望は聞いている。概算事業費を算出し、検討していく。ただ、地権者の承諾を得る必要があるため、地元、もしくは議員に協力いただきたい。

問 地権者については、落合横島様宅奥の畑と同じ方と聞いている。ひとつずつ話をしていくより、まとめて話を進めてはどうか。

答 笹尾建設課長

同じ方の所有になるので、あわせて承諾を得ていただけたらと思うが、予算の関係もあるので、相談しながら進めていきたい。

答 花本町長

両地区とも、大きな補助事業の対象になる地区

ではない。災害対象箇所で工事をする必要が第一にあり、色々検討しながら進めていきたい。

要望 優先順位は必要かもしれないが、要望された事を何十年も放置することは無くしてもらいたい。要望は早めに対応して行かないと、道が広がった頃には、使う人が少なくなるのでは困る。

町内一斉景観整備作業について

問 今年の参加人数と、高所の出来ていない所の対応は。

答 清井参事兼企画環境課長

参加人数は201名、県道上部に覆いかぶさっている箇所については、建設課から適宜県に報告し、対応を依頼している。

八重地センターセコピア付近の工事予定について

問 待避所を要望しているが、現在の進行状況は。

答 笹尾建設課長

令和7年度時点で、用

地調査業務を委託業者と契約、境界立会も行い、契約も締結。令和8年度から実際の工事に。予算にもよるが、令和10年度に事業完了予定と聞いている。

倒木対策事業について

問 令和7年度は、菅蔵地区周辺で作業していたが、驚くほどきれいになった。令和8年度は、引き続き上側を要望したいが、予定はあるのか。

答 笹尾建設課長

場所の選定はまだしていない。道路改良の計画がある所は出来ないので、地権者との話がまとまれば、県に要望したい。

田野々橋について

問 以前から要望しているが、架け替え工事の検討をしようか。

答 笹尾建設課長

構造上、高さ制限もあり、木材が運搬出来ない。上流にある西浦橋と竜谷杉橋は4t車が通行でき

るので、そちらを利用してもらいたい。

問 田野々橋の架け替えは無理のようだが、大型車が通るようなルートを考えているのか。

答 花本町長

代替案については、非常に難しい。

要望 町内でも狭い所はあるが、4t車で木を運ぶのは時代遅れ。林道には、10t以上の車が入る時代が来ている。上勝町の林業は遅れて行くばかり、先を見据えての対応を。

有害鳥獣の焼却炉について

問 焼却炉については、議員も視察し、悪臭がない事も確認をした。地元の方にも見ていただき、役場近くで処理できるようにしようか、と話をしたが、近くの住民には見ていただいているのか。

答 佐々木産業課長

議員に作業状況を視察

していただいた際にも悪臭はないとの意見をいただいた。まだまだ焼却処分する方法についても、よりよい物にするため色々な方法にチャレンジしている。ある程度確立できれば、地元の方の見学会も検討していきたい。

役場駐車場について

問 町道や県道でも色々な所で白線が消えているが、夜間に会などでコミユニティセンターに来た時に、駐車場の白線が分からない、雨が降ると特に見えないとの話があった。また、他の施設の駐車場もあわせて改善はしているのか。

答 花本町長

白線だけであれば、対応は簡単であるが、アスファルトの状況によって白線が載らない場合があり、費用も多額になってしまったため、各現場を確認し検討させてもらいたい。

令和7年度 上勝町議会議員研修報告(行政事例先進地視察)



視察場所

岩手県

視察日程

令和7年11月17日～19日

参加者

議員全員
佐々木産業課長
多田事務局長

1日目：盛岡市中央公園

IBaBa TERRACE

最初に訪問したのは株式会社パブリックが事業参画している盛岡市中央公園内のIBaBa TERRACEである。

盛岡市中央公園は1978年に都市計画決定された面積28.6ヘクタールの総合公園で、2020年から公園内の一面において、都市経営課題と経済合理性を追求

した民間主導の公民連携事業としてIBaBa TERRACEを展開している。

IBaBa TERRACEの運営は「靴を作った履く人を探せ」従来の行政主導官民連携方式ではなく、「履く人の足を測ってから靴を作る」といった手順を踏む、民間主導公民連携の方式をとっている。すなわち、事業ごとに事業者を募り共に計画して時間をかけて着実に展開している。これまでに保育園、ファーマーズ・フラワーマーケット、飲食棟、まなび棟、子ども図書館、洋菓子棟が順次開設されてきた。その間行政側は追加支出を伴わずに地代収入を得られ、さらに事業拡大に伴う周辺路線価の上昇によって固定資産税収も増加するという好循環が生まれている。

またIBaBa TERRACEでは「あそびを学び、まなびを遊ぶ」をコンセプトに掲げ、幅広い世代が楽しみ、つながり、学び合う場を目指している。不登校傾向の子どもや障がい者を受け入れ、まなび棟やファーマーズ・フラワーマーケットでの体験を通じて、主体的に将来を考える力を育むようにサポートしている。

●木伏緑地
次に訪問したのは、JR盛岡駅北口から徒歩4分、一級河川北上川沿いにある約200mの帯状公園の「木伏緑地」である。

木伏緑地もIBaBa TERRACEと同じくパブリックが連携し地域循環経済プロジェクトとして、市が管理する「みんなの公園」の中に、民間がカフェやショップといった営業行為を行える飲食店集積公園として再整備された。営業を行わない管理運用する部分も設けられていて、公園の緑地管理と地域活性を両立している。

IBaBa TERRACE、木伏緑地ともに収益性がある消費活動を起こすことにより民間主導で経済合理性を確立している点が印象的であった。

2日目：紫波町

「オガールプロジェクト」

2日目は今回の先進地視察のメインである、岩手県

紫波町の「オガール」を訪問した。

紫波町は昭和30年に1町8力村が合併してできた、岩手県のほぼ中央に位置し、東西に開けた自然豊かな町である。全国屈指のもち米の産地であり、南部杜氏の発祥の地でもある。

「オガール」とは成長を意味する紫波の方言「おがる」十駅を意味するフランス語「Gate」(ガール)を組み合わせた造語であり、紫波中央駅前都市整備事業(オガールプロジェクト)の決意と、このエリアを出発していく願いが込められている。

オガールプロジェクトは広大な町有地に民間の資金やノウハウを活用し、財政負担を最小限に抑えながら進められている。フットボールセンターを皮切りに、図書館や産直マルシェを備えた複合施設、エネルギーステーション、ビジネスホテル、役場庁舎、民営保育園、宅地分譲地などが次々と整備され、発展を続けている。そして複合施設の運営にはマルシェ売り上げが大きく貢献しているとの説明を受けた。

まとめ

今回の視察を通じて共通

して学んだのは「Public Private Partnership」(パブリック・プライベート・パートナーシップ)・・・公民連携という概念である。

行政と民間事業者が連携し、民間の資金やノウハウを活用して公共サービスの提供や施設の整備・運営を行う仕組みであり、その実現には「代理人」の存在が重要であることも指摘された。公民連携(PPP)の可能性とその実践事例について理解を深めるとともに、今後さらに知見を広げる必要性を強く感じた。

(片山政紀)

2日目：午後

岩手県八幡平市の明治百年記念公園内にある「明治百年記念公園小水力発電所」。雪の降る中で、視察に対応していただいた。

【成り立ち】

2014年(平成26年)岩手県内で初めて「砂防堰堤(さぼうえんてい)」を利用して設置した小水力発電所である。明治百年記念公園内にある「大更砂防堰堤」の未利用エネルギーに着目し、再生可能エネルギーの普及と地域振興を目的として建設された。設立当時の市長の想いにより小中

学生に向けた環境学習の場として、また観光客にも情報発信としてモニタメント的なものとして設置。

【特徴】

既存の砂防施設の落差(約9m)有効落差4.54mと河川の自然な流れをそのまま利用しており、プロペラ水車(インライン式)で最大出力は19.9kW。

【メリット】

環境負荷の低減・・・二酸化炭素を排出せず、既存施設を活用するため大規模な開発が不要である。

地域還元・・・売電収益は公園の維持管理や地域の活性化資金として活用されている。

【デメリット】

天候への依存・・・河川の流量に左右されるため、渇水期には発電量が低下する。

維持管理の手間・・・出水口へのゴミや落ち葉の詰まりを防ぐための定期的な清掃が欠かせない。こぐまや鹿などがはまっていたこともある。

水資源の豊富な上勝町としても、地域資源を活用したエネルギーの地産地消により、地域経済の自立に繋げる姿勢が求められるのではないだろうか。

(平原美和)

新田勝憲

八幡平市は、小水力発電所5カ所、地熱発電所1カ所「電気のあるさと」といわれており、一度は行ってみたい視察先であった。小水力発電とは何かを教えてください。場所でもあり、明治百年記念公園小水力発電所（プロペラ水車）1カ所を大雪の中視察した。発電に農業用水を活用、使用後は再度農業用水として再利用してしており、八幡平市は、小水力発電（プロペラ水車）を活用し、小・中学生へ環境学習、観光客には、昔ながらのプロペラ水車を活用した情報発信、すなわち見せる小水力発電であり、地元に着した観光資源となっている。八幡平市の小水力発電には、見せる小水力発電と収益を得る小水力発電があり、素晴らしい事業計画で、この度は、大いに参考になった。



関 康昭

岩手県紫波町は、都市と農村の新しい結びつきを創造するため「暮らす、働く、学ぶ、集う、憩う、楽しむ」等新しく豊かで魅力的な持続的に発展する街を目指し、JR紫波中央駅前の町有地10.7haを中心とし、都市整備を図るため、町民や民間企業の意見を伺い紫波町役場保育園、宅地57戸を分譲、広場、大通公園、フットボールセンター、エネルギーステーション、官民複合施設（プラザセンター）等、使いやすく人が集うまち、若者が学び働き、挑戦できる環境が充実したまち、環境への配慮を実践しすべての人にやさしい街を目指して、目に見えるデザインはもとより、ライフスタイルのデザインを大事に街づくりを真剣に考えているのがすばらしかった。

前田敏宏

視察のメインは、「オガール・プロジェクト」何故この町が先進地なのか。JR紫波中央駅を中心とした「循環型まちづくり」で循環と福祉の町づくりを成功させているからである。行って感じた事は、紫波町役場周辺に、住宅・商業施設の殆どがあり、何故こうゆう事をしているか役場周辺、駅周辺の基準地価を上げる目的でしているのである。一日目に行った（株）パブリックも盛岡市中央公園周辺基準地価を上げる目的、地価が上がると税収が増える。また、産直市もあり年間5億以上の売り上げがあると聞いた。また、八幡平市にある小水力発電所を二ヶ所行く予定だったが、雪が積もっていたので二カ所目の松川第一小水力の視察に行けなかったのが残念である。視察で感じた事は、官民一体になって取組をしなければ町の発展はなかなか難しいのではないかと感じた。

高石雅弘

昨年11月に、議員全員と職員2名で、盛岡中央公園、木伏緑地、オガールプラザ、八幡平市役所及び明治百年記念公園小水力発電所、東京臨海広域防災公園の各地で視察研修を行った。それぞれの場所において学ぶところがすごく多かった。しかし、上勝町の小さな町では、難しい面も多いと感じた。そんななか、八幡平市の小水力発電所の製作目的が素晴らしい。将来を担う子供達が、「水で電気を作ることができる」ということを理解しやすいがための発電機を設置したとのこと。上勝町も、見習うべきことだと痛感した。



日下一茂

紫波町オガールを視察。オガールの開発テーマとして紫波の農作物や農村の良さに触れることができ、郡市機能が集積された使いやすく人が集うまち。若者、高齢者、すべての人が希望を持ち、安心して暮らせるまちを目指す。開発理念としては都市と農村の暮らしを「愉しみ」、環境や景観に配慮したまちづくりである。上勝町民の利便性向上には、庁舎に官民の商業施設等が必要になるだろうと思った。



八幡平市の明治百年記念公園小水力発電所を雪の降る中、説明を受け見学した。行政が携わっていても水利権の取得には長い年月が必要であった。水利権問題は大変であると感じた。

岡本 明

小水力発電事業の視察をし、まず、発電するために使用した水路に驚いた。幅20m、総延長4km、稲作に適した温度を上げるために水深45cmの階段状になっていた。段差は80ヶ所。農業に利用するための技術と、その水を利用し発電する仕組みなどを学ぶ事ができた。しかし、上勝町で小水力発電事業を進める場合の事を考えると、少し違う気がした。

私なら、上勝町でモデル地区を作り、川の水で小水力発電事業を行う。その後の排水をあめごの養殖などに利用。発電した電気は近くの防犯灯や集会所、また、避難所に利用する。売電だけではなく、実用化に向けて事業を進める事が出来れば、違う分野での視察者も増え、その後の展開も期待できるのではないかと思う。

まちのようす



門松づくり(旭)



門松づくり(旭)



棚田音楽祭(福原)



上勝町制施行70周年記念式典(福原)



シクラメンの花



町内一斉清掃(福原)



消防出初式(藤川)



上勝町二十歳を祝う会(福原)



寒い日が続きますが、お体に気をつけてお過ごしください。(片山)

今後も議員一同、誠心誠意議会運営に努めてまいります。

議会だよりも第100号を迎えます。これも偏に町民の皆様のご理解、御指導によるものと感謝申し上げます。

今回の発行をもって、今年も町民の皆様にとって幸多い年になるようにお祈り申し上げます。

今年も町民の皆様にとって幸多い年になるようにお祈り申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

編集後記